

会員報告

「真田幸村ゆかりの地へ」

坂上 正司

大阪頸髄損傷者連絡会主催の春のレクリエーションに2年ぶりに参加してみた。この企画は毎年3月下旬に各地のボランティアガイドさんに史跡を中心に案内してもらおうというもので、今回は5回目になる。過去には奈良・寺町、大阪・北浜、西宮・宮水&酒蔵などを訪れた。今回は、「真田幸村ゆかりの地へ」と題して茶臼山周辺を巡ることとなった。

集合時間までにあべのハルカスの塚田農場さんで宮崎地鶏で腹ごしらえ、天王寺ミオで時間を潰して集合場所へ。スタート地点は天王寺公園入口の交番前。3人ずつのグループに分かれて出発。まずは、天王寺公園ゆかりの人物ということで6代大阪市長池上四郎（任期：1913年10月15日～1923年11月9日）の銅像。彼は、天王寺公園ができるきっかけとなった内国勸業博覧会や御堂筋の整備計画を7代関一（せきはじめ）とともに推し進めた大阪の功労者ということで銅像となった。つづいて、お城のようなラブホ街を抜けて和気山統国寺へ。やや趣が違ふなあと思っていたら韓国のお寺だそう。南北統一を願って統国寺と名付け、奈良・平安時代に近隣の土木、治水工事を行った和気清麻呂（わけのきよまる）に因んで山号を冠したそう。境内には1989年に崩壊した「ベルリンの壁」の一部が移築されていた。旧東ドイツ（ドイツ民主共和国）側の基礎の立ち上がりひとつとっても民族が分断されることの辛さ、厳しさを改めて思い知らされた。在日朝鮮人・韓国人の人たちが多く定住するこの地域ならではの光景だ。統国寺から谷町筋に出て北へ向かうとかなり下っている。谷底からやや登りにさしかかったところに堀越神社がある。前出の和気清麻呂が大和川や河内湖の排水と水運のために上町台地をここで開削しようとして失敗した跡地とも言われる。おそらく、いろんな思いが詰まっているのだろう。ところで、この企画のタイトルである「真田幸村ゆかりの地へ」はどこへ・・・と思ったところで「茶臼山」登場。大坂冬・夏の陣で家康、信繁（幸村）の東西両雄がそれぞれ陣

取った名勝である。山とは言っても天保山と並んで標高の低さでは日本一、二位を争う山だそう（実のところは前方後円墳）。それでも車いすで登るのははばかれる。銘板を兼ねた記念碑の前で記念撮影。銘板のデザインはアンモナイトのようなので、当地で発見された化石に因んだものと思いきや、そうではないそう。幸村が旗印を六文銭にしたことに比べて、現代人のデザインセンスは淋しいものだ。それはさておき、ここはあべのハルカスを背景に写真を撮るにはいいピクチャーポイントになっている。つづいて一心寺三千佛堂と坂松山高岳院一心寺へ。ここは大坂冬の陣・大坂夏の陣で徳川家康の陣が置かれている。坂松山の山号も家康が贈ったとされている。

一心寺から国道25号線を挟んで北側に安井神社（安居天満宮、安居天神、安居神社ともいう）に向かう。小高い丘に建てられたこの神社はもともとは少彦名（すくなびこな）神が祭られており平安時代の貴族・菅原道真（みちざね）が失脚して太宰府に流される際、立ち寄ったとされていて、それ以来道真が祀られるようになったそう。安居という名はその頃のものとしてされている。近代有名になったのは、信繁戦死の地とされたことに因る。また、大丸の創業者・下村彦右衛門正啓がよく参拝したことで、境内が整備されることになる。

さて、集合場所へ戻るには谷町筋へでれば簡単だが、ガイドさんの計らいで違うルートで帰ることになる。一心寺からは茶臼山の西側に回り込み、通称ちゃぶ池のほとりにできた遊歩道を抜けていく。ここは知る人ぞ知るチエちゃんとヒラメちゃんが遊んでいた池だそう（残念ながらガイドさんはそのことは知らなかった）。大阪市立美術館の前から通天閣を臨むピクチャーポイントもなかなかよかった。大阪の街は中世まではなにわ潟の治水に明け暮れていたと考えていたのだが、上町台地は思いの外活気にあふれていたように感じられた。また、同じ地であっても時代時代で様々な出来事がそこで起こっていることを思うと、同じ街も違って見えてくる。